

4 知 多 地 区

〔 半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町 〕

【地区の概況】

知多地区は、名古屋市の南に位置する知多半島及び島々からなっています。地区全体で見ると、人口は増加していますが、地区北部と南部では状況が異なっています。

地区北部の伊勢湾沿岸及び中部の衣浦湾沿岸の臨海部には、工業地帯が広がっており、県外から若年男性を中心とした大きな人口流入があります。また、地区北部・中部は、名古屋市への通勤者も多く、ベッドタウンとしての側面も持っています。

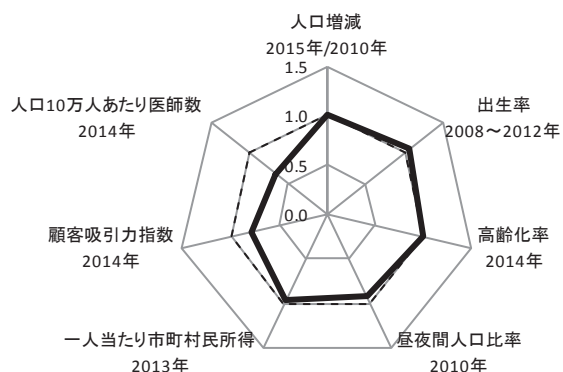
一方、地区南部は、豊かな自然が広がり、農業・水産業、観光などが盛んに営まれています。一方、人口減少・高齢化が進んでいます。

また、本地区は中部国際空港を有し、中部圏のゲートウェイとしての役割を担うとともに、海辺の豊かな自然環境や、常滑焼、山車まつりなどの伝統的文化を有し、更に近年では、中部臨空都市で商業施設の集積が進むなど、本県を代表する観光エリアとなっています。

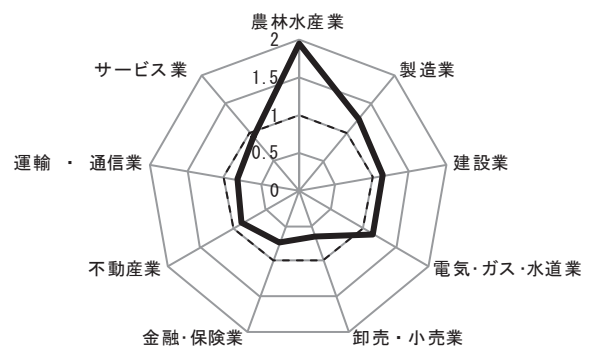


- 人口 621,091人 (8.3%)
- 面積 391.73k㎡ (7.6%)
- 人口密度 1,585.5人/㎡

※人口は2015年10月現在、面積は2014年10月現在、
()内は県内シェア



〈域内総生産構成比の全県との比較〉



〔 全県データ(点線)を1として、
この地区の指数を実線で図示 〕

1 人口

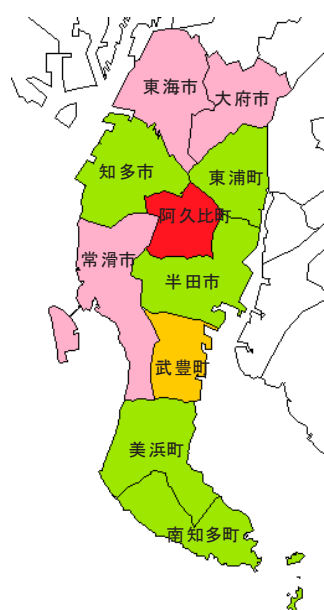
知多地区の2015年の人口は621,091人（2010年比101.0%）、県内シェアは8.3%となっています。

市町別に見ると、阿久比町（2010年比109.0%）、大府市（同年比104.6%）、東海市（同年比104.0%）などで人口増加が大きくなっています。一方、半島先端部の南知多町（同年比91.1%）、美浜町（同年比93.7%）では、人口が減少しています。

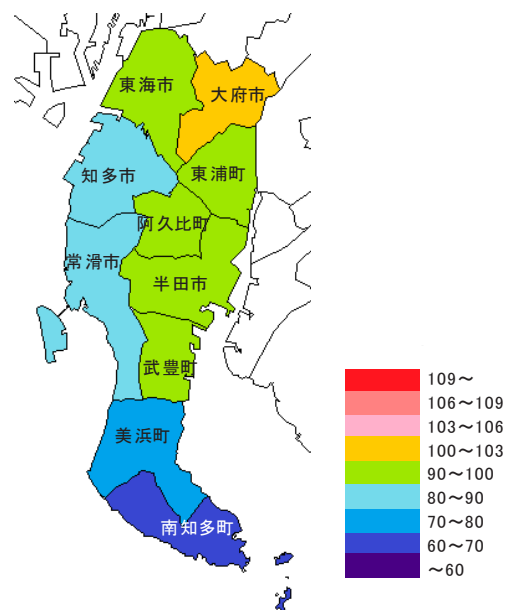
また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の地区内の人口は577,457人（2010年比93.9%）に減少すると見込まれています。減少率が高いのは、南知多町（同年比60.5%）、美浜町（同年比74.9%）などとなっています。また、高齢化率は、2010年比で+10.2ポイントの上昇と、県平均（+12.2ポイント）より増加幅は小さいものの、美浜町（+14.4ポイント）で大きな上昇が見込まれています。

■総人口の推移

◇2015年（2010年を100とした比較）



◇2040年（2010年を100とした比較）



	総人口（人）					増減率	
	2000年	2005年	2010年	2015年	2040年	2010年→2015年	2010年→2040年
愛知県	7,043,300	7,254,704	7,410,719	7,484,094	6,855,632	101.0%	92.5%
知多	575,272	596,891	614,794	621,091	577,457	101.0%	93.9%
半田市	110,837	115,845	118,828	116,936	111,405	98.4%	93.8%
常滑市	50,183	51,265	54,858	56,560	48,629	103.1%	88.6%
東海市	99,921	104,339	107,690	111,988	105,397	104.0%	97.9%
大府市	75,273	80,262	85,249	89,170	91,497	104.6%	107.3%
知多市	80,536	83,373	84,768	84,643	75,765	99.9%	89.4%
阿久比町	24,028	24,577	25,466	27,767	25,073	109.0%	98.5%
東浦町	45,168	48,046	49,800	49,238	47,676	98.9%	95.7%
南知多町	23,250	21,909	20,549	18,714	12,441	91.1%	60.5%
美浜町	26,083	26,294	25,178	23,591	18,854	93.7%	74.9%
武豊町	39,993	40,981	42,408	42,484	40,720	100.2%	96.0%

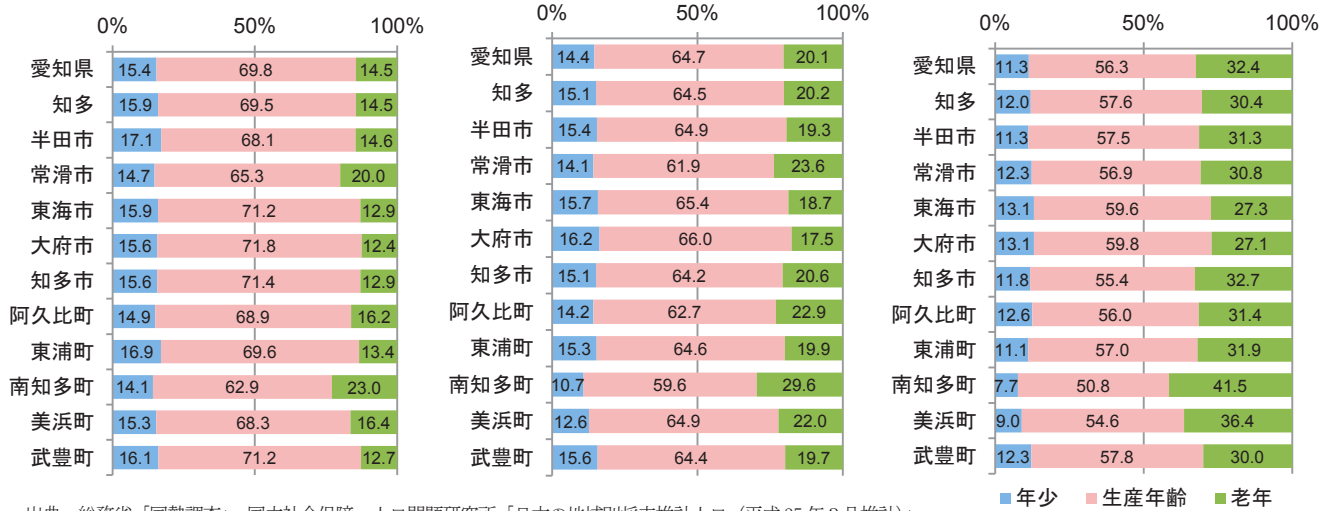
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

■年齢三区分別人口割合

2000年

2010年

2040年



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

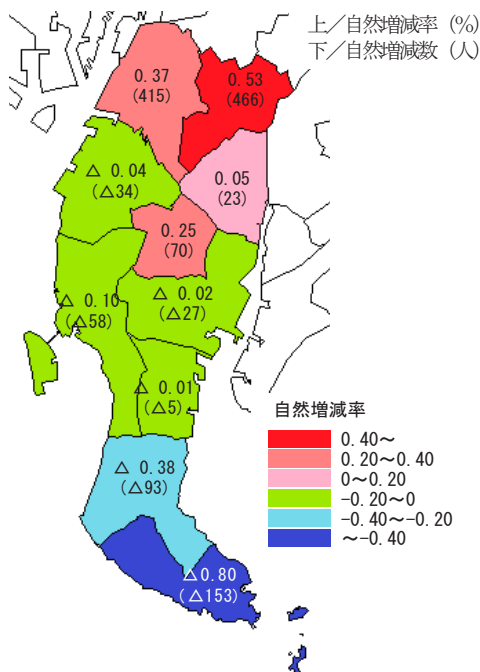
2 自然増減

知多地区の2014年の自然増減率*は0.10%の増加で、604人の自然増となっています。自然増減率を市町別に見ると、大府市（0.53%）、東海市（0.37%）などでプラスが大きくなっている一方、南知多町（-0.80%）、美浜町（-0.38%）などでマイナスが大きくなっています。

また、合計特殊出生率（2008年～2012年）を市町別に見ると、東海市（1.82）、大府市（1.73）などで高く、美浜町（1.22）、常滑市（1.39）などで低くなっています。

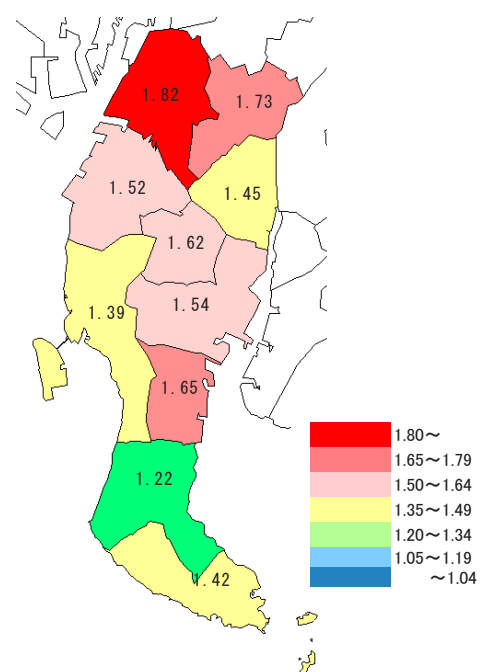
※自然増減率=自然増減数/総人口×100

■自然増減の状況（2014年）



出典：厚生労働省「人口動態統計」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

■合計特殊出生率（2008年～2012年）



出典：厚生労働省「2008年～2012年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」

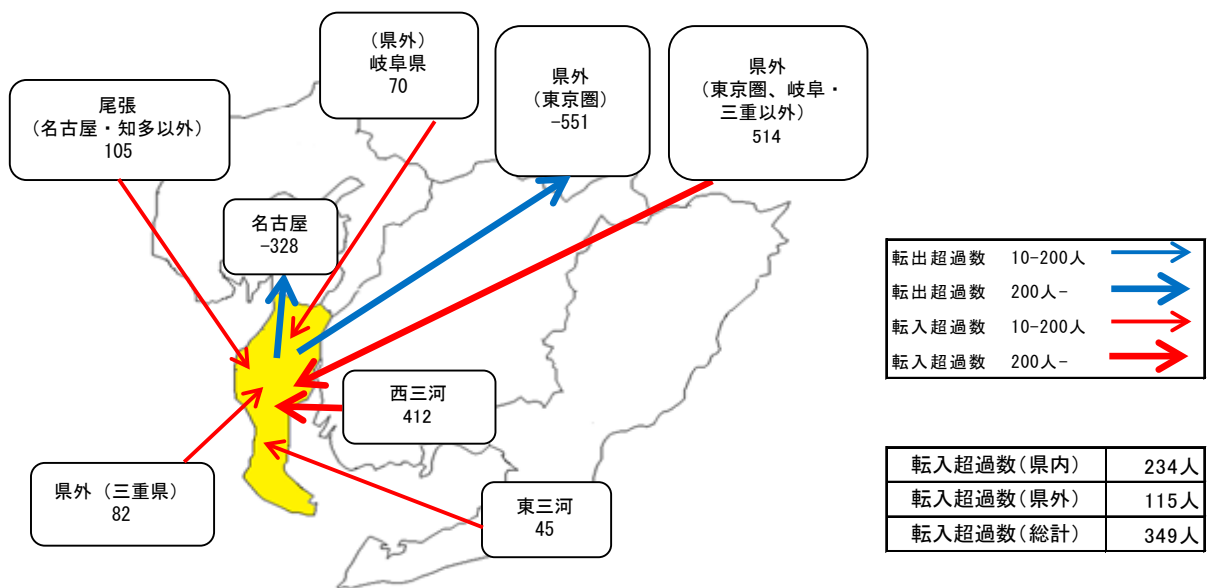
3 転出入の状況

知多地区の2014年の転出入は、349人の転入超過となっています。西三河、尾張（名古屋、知多以外）、三重県などに対して転入超過となっています。一方、東京圏、名古屋に対して転出超過となっています。

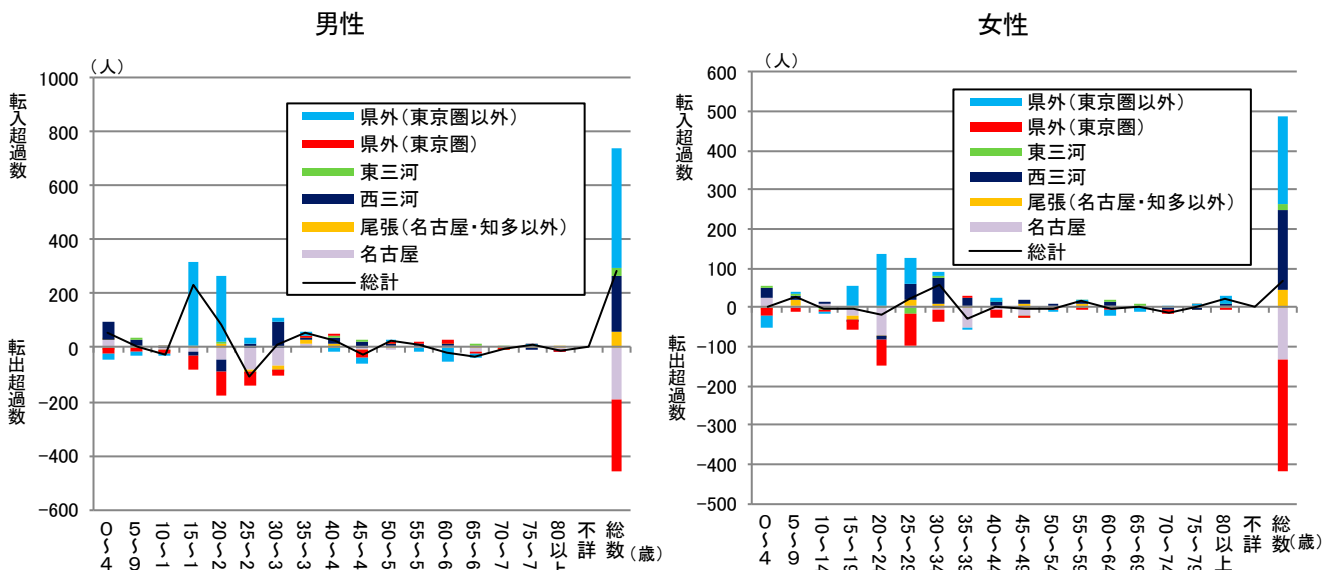
男女別に見ると、男性は15～24歳で転入超過が大きくなっており、女性は25～34歳で転入超過が大きくなっています。男性が県外（東京圏以外）からの転入が多いのに対し、女性は西三河地区など、県内からの転入が多くなっています。

■転出入の状況（2014年）

<転出入の状況>



<5歳階級別純移動数>



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2014年）

4 昼夜間人口比率、就従比、通学比

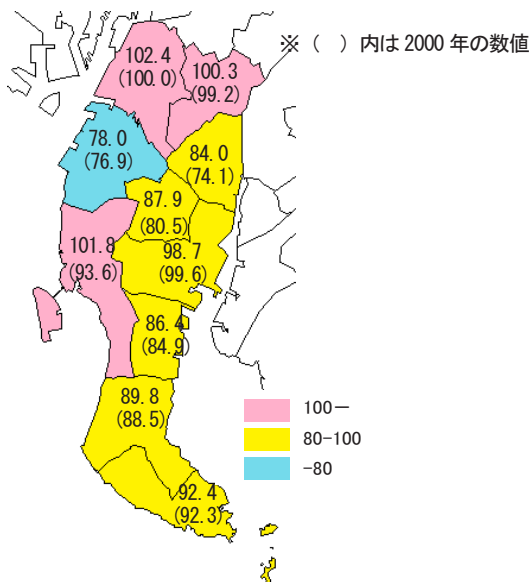
知多地区の2010年の昼夜間人口比率^{※1}は93.9（2000年比+2.7ポイント）、就従比^{※2}は0.91（同年比+0.04ポイント）、通学比^{※3}は0.72（同年比+0.01ポイント）となっています。

市町別に見ると、昼夜間人口比率は東海市（102.4）、常滑市（101.8）などで100を超えています。就従比は、常滑市（1.08）、東海市（1.06）、大府市（1.02）で高く、通学比は、美浜町（1.29）で高くなっています。

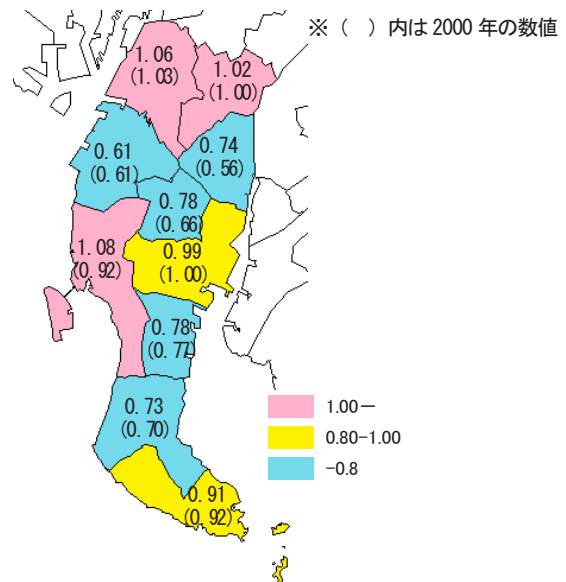
また、当地区では、名古屋市への通勤率が10%を超える市町が多く、東海市（名古屋市への通勤率：21.7%）、大府市（名古屋市への通勤率：19.2%）、知多市（名古屋市への通勤率：18.2%）などで高くなっています。

※1 昼夜間人口比率＝昼間人口／夜間人口（常住人口）×100。100を下回ると、通勤・通学人口の流出超過を示します。
 ※2 就従比＝従業地就業者数／常住地就業者数。就従比が1を下回ると、就業者の他地域への流出を示します。
 ※3 通学比＝就学地通学者数／常住地通学者数。通学比が1を下回ると、通学者の他地域への流出を示します。

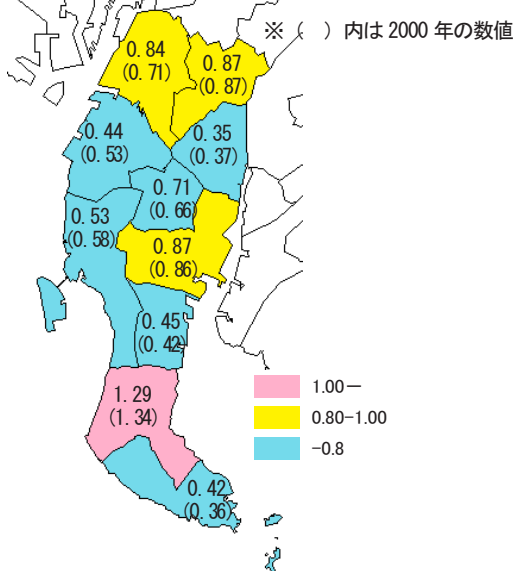
■昼夜間人口比率（2010年）



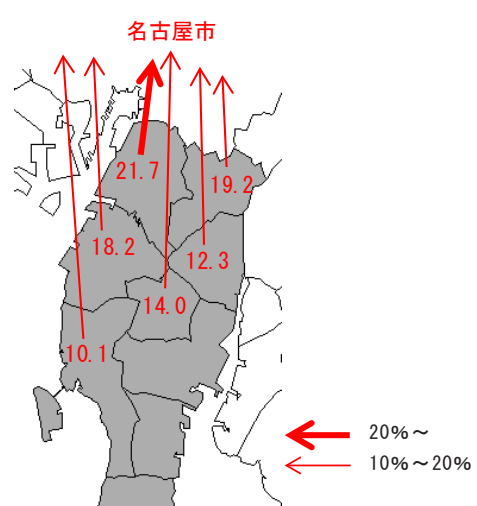
■就従比（2010年）



■通学比（2010年）



■名古屋市への通勤率（2010年）



出典：総務省「国勢調査」

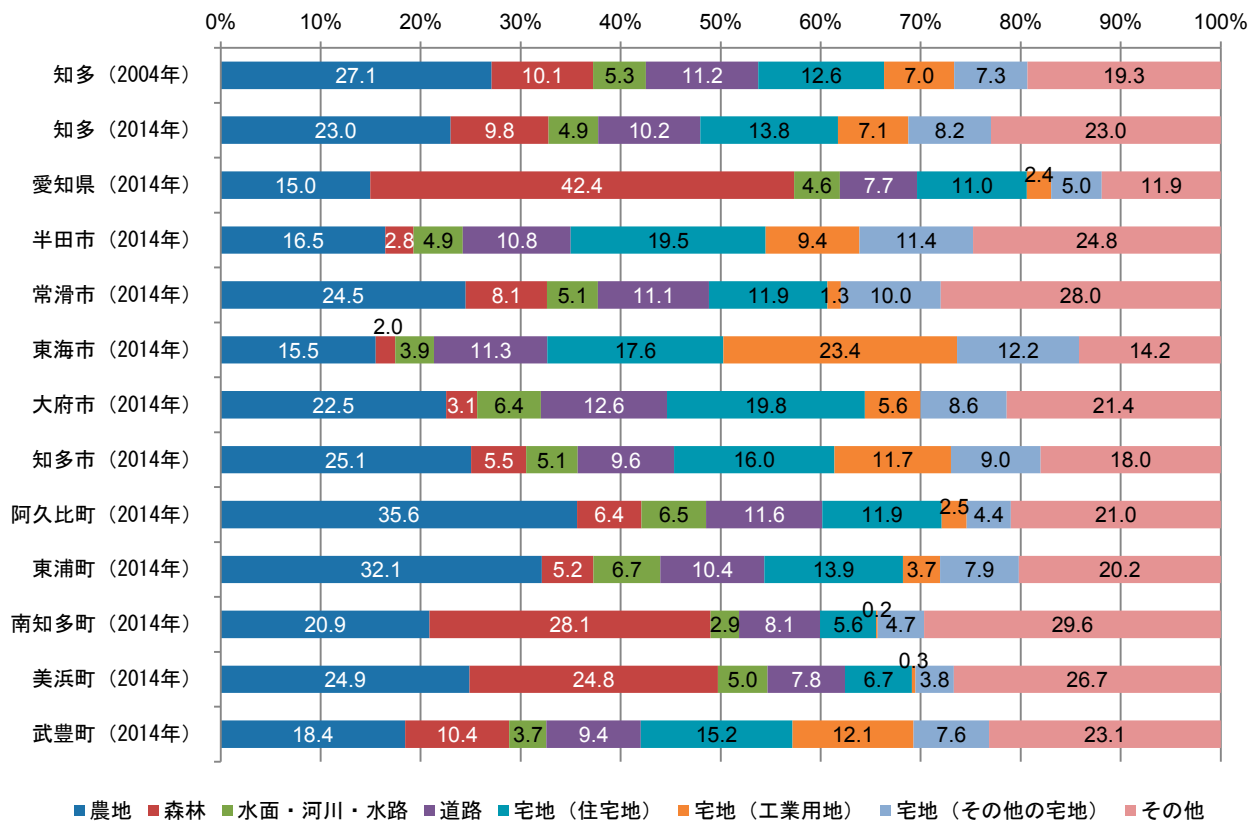
5 土地利用

知多地区の2014年の地目別土地利用状況を見ると、宅地29.1%、農地23.0%、道路10.2%などとなっています。宅地の内訳は、住宅地が13.8%、工業用地が7.1%、その他の宅地（商業・業務用地など）が8.2%となっています。

県全体と比較すると、農地（+8.0ポイント）、工業用地（+4.6ポイント）の割合が高くなっています。また、2004年と比較すると、農地の割合が減少（-4.1ポイント）する一方、住宅地（+1.2ポイント）、その他の宅地（+0.9ポイント）の割合が増加しています。

市町別に見ると、阿久比町と東浦町は、農地の割合がそれぞれ35.6%、32.1%と高くなっています。また、東海市は、工業用地の割合が23.4%と高くなっています。

■土地利用の現況



※端数処理の関係上、合計が100にならない場合がある。また、上記の説明と差引の数値が合わない場合がある。

出典：愛知県「土地に関する統計年報」

※宅地：住宅地、工業用地、その他の宅地の合計

6 産業

(1) 就業構造

知多地区の2010年の就業構造を見ると、第1次産業従事者比率が3.4%（県：2.3%）、第2次産業従事者比率が39.2%（県：33.3%）、第3次産業従事者比率が57.4%（県：64.4%）であり、県平均と比較すると、第2次産業のウェイトが高い就業構造となっています。

2000年と比較すると、第1次産業従事者比率（-1.5ポイント）、第2次産業従事者比率

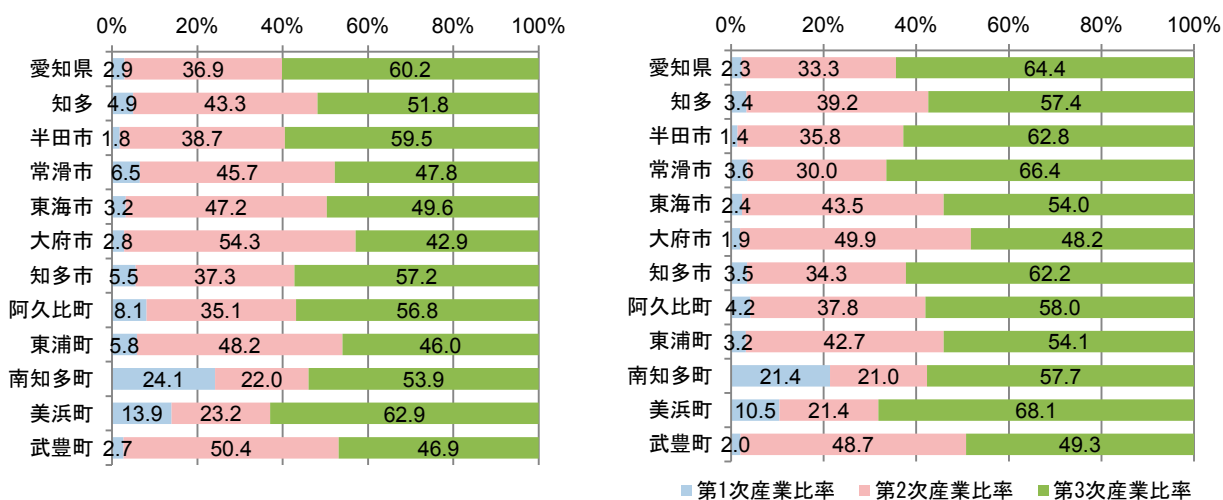
（－4.1ポイント）の割合が低下し、第3次産業従事者比率（＋5.6ポイント）が増加しています。

市町別に見ると、第1次産業は、南部の南知多町（21.4%）、美浜町（10.5%）で県平均を大きく上回っています。2000年と比較すると、阿久比町を除いた市町では、県全体と同様に、第2次産業従事者比率が低下し、第3次産業従事者比率が上昇しています。また、常滑市では、第2次産業（－15.7ポイント）から第3次産業（＋18.7ポイント）への移行が大きく進んでいます。

■産業別従業者割合

2000年

2010年



出典：総務省「国勢調査」

(2) 農林水産業

知多地区の2010年の農産物販売金額は331億円であり、県内シェアは12.2%となっています。農業部門別では、酪農86億円、養鶏43億円、花き・花木39億円などが多くなっています。当地区では、都市近郊である立地条件を生かし、酪農を中心とした畜産、花き、野菜、果樹など、多種多様な農業が行われています。また、伊勢湾、三河湾及び渥美外海の豊かな漁場を生かした水産業も盛んで、とらふぐ、いかなご、しらす、かたくちいわし、のりなどの水揚げ量は県内有数となっています。

市町別に見ると、半田市が87億円で最も多くなっています。同市の販売金額の6割弱を占める酪農は、県内第1位の販売金額となっています。次いで、南知多町42億円、美浜町40億円となっています。

■農産物販売金額（2010年）

市町	販売金額	内訳（上位3位）		
		酪農	養鶏	花き・花木
知多	331.3	85.6	43.0	38.9
半田市	86.6	50.5	12.0	9.5
常滑市	36.2	16.5	4.1	3.6
東海市	28.3	7.7	6.5	6.4
大府市	31.4	6.8	5.3	5.2
知多市	11.7	2.8	2.6	2.1

市町	販売金額	内訳（上位3位）		
		酪農	花き・花木	稲作
阿久比町	16.7	5.3	3.0	3.0
東浦町	23.9	6.6	3.9	3.0
南知多町	41.8	13.8	7.5	7.4
美浜町	39.7	10.8	8.6	4.2
武豊町	15.0	3.6	3.0	2.5

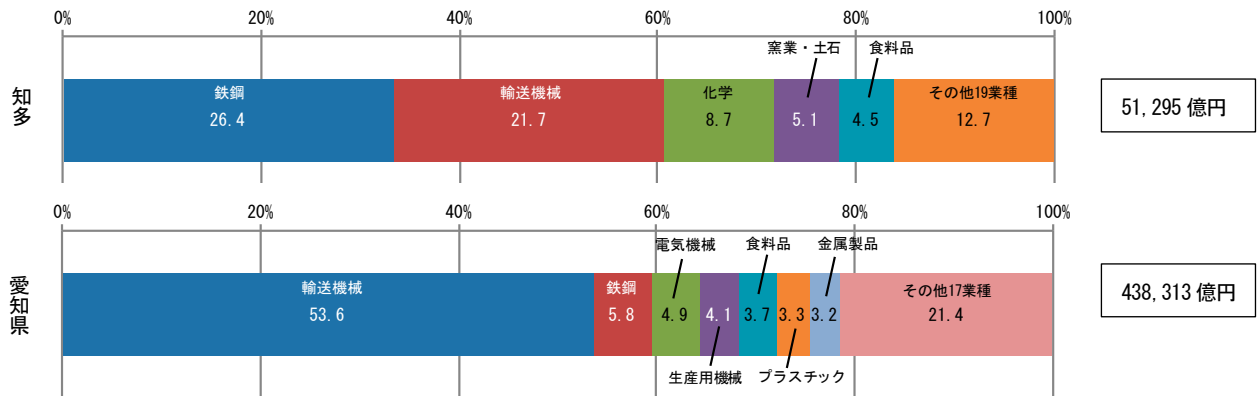
出典：地域経済分析システム（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

（3）製造業

知多地区の2014年の製造品出荷額等は5兆1,295億円であり、県内シェアは11.7%となっています。産業中分類別の構成比を見ると、鉄鋼が26.4%、輸送機械が21.7%、化学が8.7%などとなっています。地区北東部の臨海部に集積している鉄鋼業は、県内シェアの約5割を占めています。

市町別に見ると、東海市が1兆4,740億円で最も多く、次いで、知多市が1兆3,225億円、大府市が8,800億円となっています。

■製造品出荷額等の産業中分類別構成比（2014年）



出典：経済産業省「工業統計調査」（2014年）

■市町別製造品出荷額等（2014年）

市町村	製造品出荷額等（億円）	従業者数（人）	事業所数（事業所）
愛知県	438,313	795,496	16,795
知多	51,295	75,400	1,383
半田市	7,522	12,935	239
常滑市	1,612	5,739	156
東海市	14,740	15,980	220
大府市	8,800	19,646	322
知多市	13,225	4,394	85
阿久比町	549	2,339	29
東浦町	1,631	5,528	118
南知多町	200	1,312	89
美浜町	581	1,069	40
武豊町	2,433	6,458	85

出典：経済産業省「工業統計調査」（2014年）

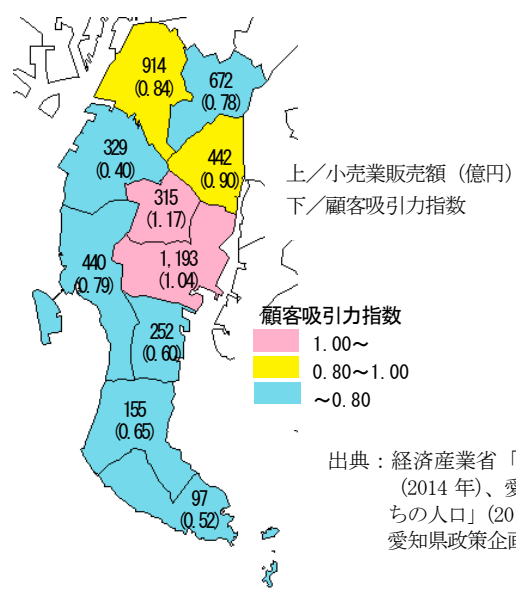
（4）商業

知多地区の2014年の小売業販売額は4,810億円であり、県内シェアは6.6%となっています。また、顧客吸引力指数※は0.79となっています。

市町別に見ると、小売業販売額は、半田市が1,193億円、次いで東海市が914億円と高くなっています。また、顧客吸引力指数は、阿久比町（1.17）、半田市（1.04）が1.00を超えています。

※顧客吸引力指数：各市町村の人口1人あたりの小売業販売額を県の1人あたりの小売業販売額で除したものの指数が1.00以上の場合は、買物客を外部から引き付け、1.00未満の場合は、外部に流出していると見ることができます。

■小売業販売額（2014年）



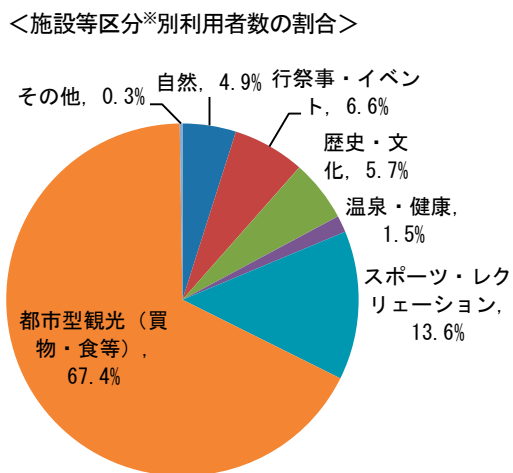
出典：経済産業省「商業統計」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

7 観光

知多地区の2014年の観光資源利用者数を区分別に見ると、「都市型観光（買物・食等）」が67.4%で最も割合が多く、次いで「スポーツ・レクリエーション」が13.6%、「行祭事・イベント」が6.6%となっています。利用者数上位の観光資源は、中部国際空港（年間10,941,000人；常滑市）、めんたいパークとこなめ（年間1,773,094人；常滑市）、えびせんべいの里（年間：1,322,190人；美浜町）などとなっています。

また、当地区は、山車まつりなどの歴史・文化に加え、常滑焼や醸造業などの産業観光、酪農体験やミカン狩りなどの体験型観光、伊勢湾、三河湾に囲まれた海洋・海岸、離島の豊かな自然など、多様な観光資源を有しています。加えて、当地区では、2010年に、市町、観光協会、商工会議所、商工会などが「知多半島観光圏協議会」を設立し、知多半島の広域観光の推進に取り組んでいます。

■観光レクリエーション利用者統計（2014年）



※観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」と同様の区分

＜観光資源（利用者数上位10位）＞

	観光資源名	市町村	利用者数 (人)
1	中部国際空港来場者	常滑市	10,941,000
2	めんたいパークとこなめ	常滑市	1,773,094
3	えびせんべいの里	美浜町	1,322,190
4	師崎釣り	南知多町	541,299
5	南知多ビーチランド	美浜町	424,805
6	ジョイフルファーム鶺鴒の池	美浜町	325,308
7	羽豆岬	南知多町	322,385
8	内海海水浴場	南知多町	314,110
9	セラモール(とこなめ焼酎団地)	常滑市	274,048
10	やきもの散歩道	常滑市	263,380

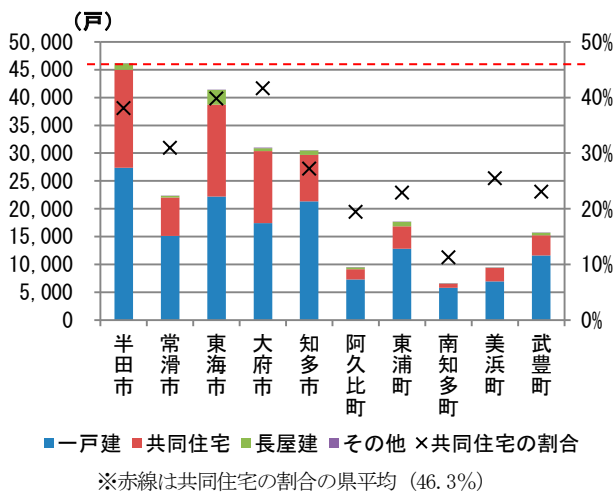
出典：愛知県「観光レクリエーション利用者統計」（2014年）

8 住宅

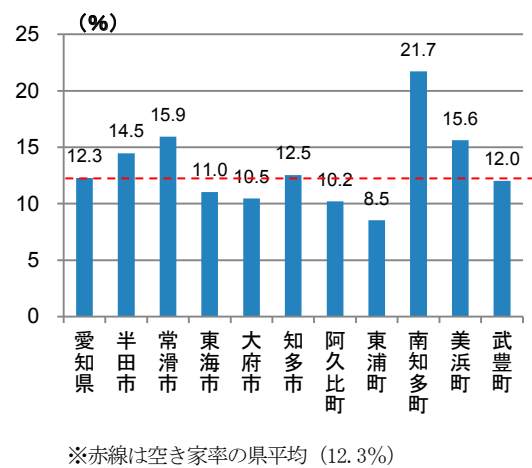
知多地区の2013年の住宅総数を市町別に見ると、半田市が46,230戸で最も多く、次いで、東海市が41,440戸、大府市が31,000戸となっています。また、共同住宅の住宅総数に占める割合は、地区内全市町で県平均（46.3%）を下回っています。

空き家率を見ると、南知多町（21.7%）、常滑市（15.9%）などで県平均（12.3%）を上回っています。

■住宅総数（2013年）



■空き家率（2013年）



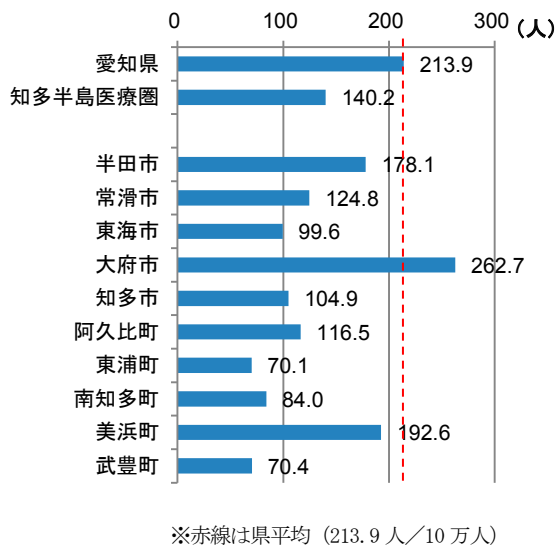
出典：総務省「住宅・土地統計調査」（2013年）
 ※住宅・土地統計調査では、人口15,000人未満の町・村の調査結果が公表されていない。

9 医療・福祉

知多地区の2014年の人口10万人当たりの医師数は140.2人であり、県平均（213.9人）を下回っています。市町別に見ると、大府市（262.7人）で多くなっています。

また、本県が2015年に実施した調査によると、医師不足による診療制限をしている病院の割合は26.3%で県平均（22.4%）を上回っています。2007年の状況と比較すると、6.3ポイント上昇しています。

■人口10万人当たり医師数（2014年）



■医師不足を原因とした診療制限を行っている県内病院の割合

	2007年6月末			2015年6月末		
	病院数	診療制限している病院数	病院数に対する割合	病院数	診療制限している病院数	病院数に対する割合
愛知県	338	62	18.3%	322	72	22.4%
知多半島医療圏	20	4	20.0%	19	5	26.3%

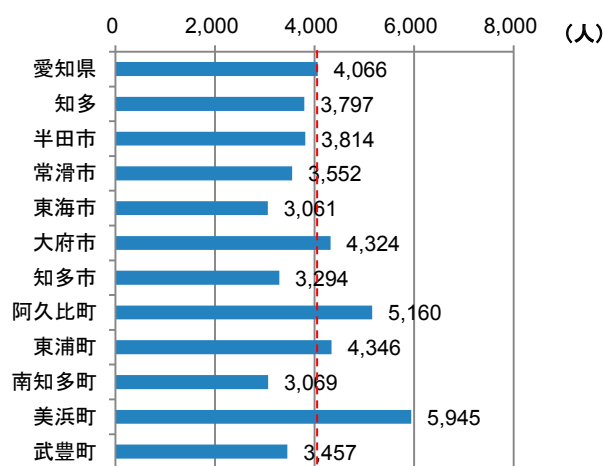
出典：愛知県「県内病院における医師不足の影響に関する調査結果」

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

高齢者向け施設について、2014年の65歳以上人口10万人当たりの定員数を見ると、3,797人と、県平均（4,066人）を下回っています。市町別に見ると、美浜町、阿久比町が県平均を大きく上回る一方、東海市、南知多町では大きく下回っています。

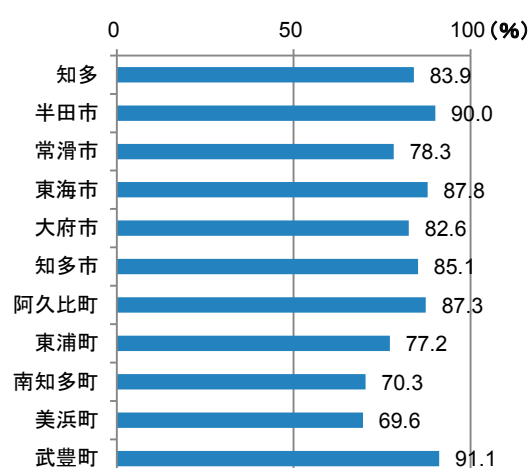
2014年の保育所の定員充足率（利用児童数÷定員）は83.9%であり、地区内に充足率が100%を上回る市町はありません。

■高齢者向け施設定員数（65歳以上人口10万人当たり）（2014年）



※赤線は県平均（4,066人/10万人）

■保育所充足率（2014年）



出典：厚生労働省「社会福祉施設等調査」（2014年）、「介護サービス施設・事業所調査」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

※高齢者向け施設定員数：養護老人ホーム（一般）、（盲）、軽費老人ホーム（A型）、（B型）、（ケアハウス）、有料老人ホーム、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の定員数

【知多地区における県の主な取組】

当地区は、中部国際空港を擁する中部圏の空の玄関口であり、製造業、農業、水産業などの多様な産業や、豊かな自然や地場産業などを生かした観光資源を有する一方、半島先端地域では、人口減少が進んでいます。県としては、中部国際空港の機能強化をはじめ、あいち健康の森周辺での健康長寿関連施設の集積のほか、多様な産業の育成・強化、更には知多半島の観光圏としての魅力の創造・発信などに取り組んでいます。

（中部国際空港の利用促進・機能強化、大規模展示場の整備）

中部国際空港の利用促進に向け、「中部国際空港利用促進協議会」をはじめ、関係機関との連携を図りながら、地域と国内外とを直結する航空ネットワークの維持・充実に向け、エアポートセールスや「昇龍道プロジェクト」をはじめとするインバウンドの獲得などに取り組んでいます。

こうした需要拡大を図りながら、国際拠点空港としての役割を十分に発揮できるよう、二本目滑走路（完全24時間化）の整備をはじめとする機能強化の実現に向けた国への働きかけを図るとともに、LCC（格安航空会社）の受入環境の整備などに取り組んでいます。

また、大規模MICE案件を見据え、中部国際空港島において展示面積6万平方メートル程度の大規模展示場の整備を進めています。



中部国際空港



昇龍道のポスター

（健康長寿関連施設の集積、特別支援学校の設置）

「あいち健康の森」を中心とした地域に、健康長寿関連施設の集積を図っており、2015年4月には、あいち健康の森公園内に薬草園をオープンしたほか、2016年2月には、あいち小児保健医療総合センターの小児3次救急施設が供用開始しました。

また、半田特別支援学校の過大化解消に向け、2018年4月の開校をめざし、大府特別支援学校内への新たな特別支援学校の整備を進めています。



あいち健康の森薬草園



あいち小児保健医療総合センターの小児3次救急施設

（多様な産業の育成・強化）

「あいち健康の森」を中心とした健康長寿関連施設等の集積を生かし、国立長寿医療研究センター内に「あいちサービスロボット実用化支援センター」を開設し、医療・介護や生活支援等のサービスロボットの開発に取り組むモノづくり企業に対し、実用化に向けた相談やマッチングなどのサポートなどを行っています。

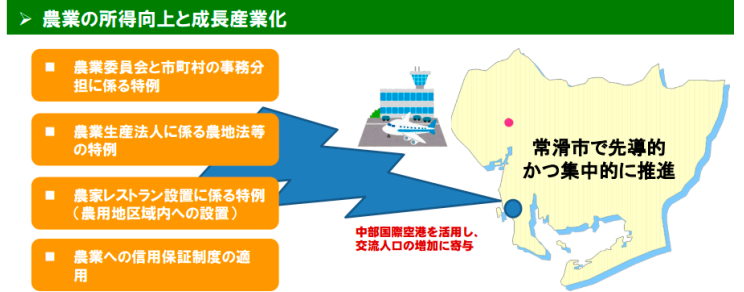
また、航空宇宙産業については、「アジア No. 1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の支援措置の活用とともに、特区における規制の特例措置や工場立地法に基づく条例により、半田市、東海市、大府市、知多市において、工場立地に係る緑地規制の緩和措置を図るなどの取組が行われており、更なる企業集積や航空機生産機能の拡大・強化に取り組んでいます。

一方、農林水産業については、国家戦略特区として、2015年9月に認定された区域計画

において、常滑市での規制の特例措置が認められました。具体的には、農地法に基づく農地の権利の設定・移転に係る農業委員会の事務が常滑市長に移行されたほか、市内の2つの農業生産法人が、農地内での農家レストランの設置を予定するなど、規制の特例措置の活用による6次産業化の取組が進められています。



あいちサービスロボット実用化支援センター展示ロボット
（左 歩行支援ロボット／右 癒やしロボット）



常滑市における国家戦略特区の取組
（2015年9月 愛知県国家戦略特別区域会議資料）

（知多半島の観光圏としての魅力の創造・発信）

中部国際空港に隣接する中部臨空都市において、商業施設等の誘致を進めており、2015年12月には、東海地方で最大級の規模を有するショッピングモールが開業しています。また、2015年11月にオープンした「MIZKAN MUSEUM」や「やきもの散歩道」など、地域の地場産業である醸造業や窯業を生かした産業観光の推進や、山車まつりなどの伝統文化の魅力発信を図っているほか、日間賀島、篠島、佐久島の3離島において、宝探しの体験イベントや各種ツアー等を展開する「あいちの離島アジト化計画」や、「アイアンマン70.3 セントレア知多半島ジャパン」の開催・支援などの取組を進めています。



あいちの離島アジト化計画
（ホームページ）



アイアンマン70.3
セントレア知多半島ジャパン

（産業や暮らしを支える基盤の整備）

中部国際空港と伊勢湾岸自動車道を直結する西知多道路について、名古屋高速道路を経由して名古屋駅を結ぶ重要な路線であることから、早期整備に向けた取組を進めるととも

に、地域内交通の円滑化に向け、都市計画道路の名古屋半田線や瀬戸大府東海線などの整備を進めています。

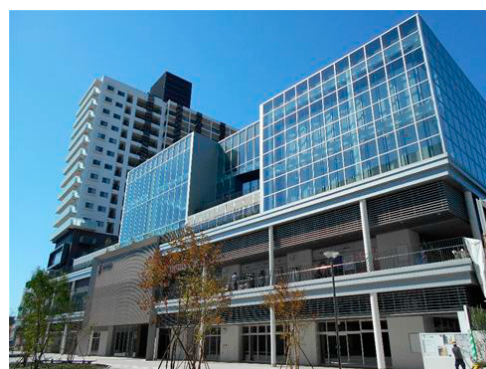
また、知多半島道路、南知多道路、知多横断道路など愛知県道路公社が管理する有料道路8路線の運営を民間事業者が行う有料道路コンセッションの実現に向けた取組を進めており、2016年夏頃にかけて事業者の選定を行い、同年10月頃の事業開始を予定しています。

衣浦港においては、バルク貨物の増大に対応するための中央ふ頭西地区のふ頭用地の整備や円滑な港湾物流機能の確保のための臨港道路の整備など、港湾機能の強化を図っています。

更に、都市機能の充実に向けて、東海太田川駅西市街地再開発事業やJR半田駅前土地区画整理事業などを進めているほか、河川・海岸施設の耐震化及び半島先端部など津波到達時間の早い地域の水門の自動閉鎖化や、大田川など県管理河川のハード対策・ソフト対策を組み合わせた浸水対策を推進しています。



西知多道路 東海 JCT（イメージ図）



東海太田川駅西市街地再開発事業
（再開発ビル「ユウナル東海」）